

# ROTARY INTERNATIONAL GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 62

NAOHARU TODA

OGAKI CHAMBER OF COMMERCE  
KURUWAMACHI OGAKI GIFUKEN JAPAN



## NO. 2

昭和31年7月15日 (July 15, 1956)

第62区ロータリークラブ

### 会長並びに幹事殿

国際ロータリー  
第62区ガバナー 戸田直温

#### ○ ロータリー国際協議会並に国際大会に 出席 (Attending R. I. Assembly and R. I. Convention)

5月20日に羽田空港を出発して21日に米国シカゴに着、22日にシカゴ郊外エバンストンのR. I. 本部を訪ね、23日に特別列車でシカゴを發しレーキブラシッドに24日着、宿舎レーキブラシッドクラブに入り、直ちに其晩より協議会が始まり、31日迄8日間本会議、委員会と毎日A. Z. Baker 会長外各役員の1956—57のロータリーの向ふべき方針其他に付き真摯、熱心なる指導を受けました。アツセンブリーが終ると直ちに其晩特別列車で全員出發6月1日フィラデルフィアに着、2日には規程審議会議に第62区の代表として出席しました。国際大会は4日より7日まで4日間市集会堂で開かれましたが実に盛会で非常に大なる大会場は一万余名の参加者で埋まり最終日の7日には東京クラブのバスト・プレジデント 東ヶ崎氏の演説があつて 参会せる各ロータリアンの大喝采を博しました。日本から此大会に出席しました吾々も 此東ヶ崎氏の講演により 日本のロータリーが世界に声価を大に挙ぐる事を得た事を東ヶ崎氏に深謝すると共に 大に悦ぶ

ものであります。斯くして協議会及び大会を終り、私は其後ワシントン、ニューヨーク、ロスアンゼルス、サンフランシスコに寄り6月21日無事羽田空港に 帰着しました。

#### ○ ロータリー国際協議会 (Rotary International Assembly)

第1日。A. Z. Baker 会長夫妻の各会員接見に始まり、終つて第1回本会議、最後にロータリー参加各国の国旗を一本宛ボーイスカウトが捧持して壇上に建てました。日本の国旗が建てられる時には 流石に目頭が熱くなりました。ロータリーの参加国数 98、壇上に建て終られた時には実に壯観で全員起立拍手の下に 此日の幕を閉じました。

第2日。第2回本会議。第一副会長 O. D. A. Oberg 氏の “Your Year” に関する講演がありました。各ロータリアンの身心に 各個人の奉仕的精神を植え付けること、個人各々の奉仕こそ ロータリーの精髓であることを強調せられ之れには簡明であれ、奉仕に邁進せよと説かれ深い感銘を与られました。午後には第3回本会議でロータリー文献並に雑誌ロータリアンに就いての講演があり

次いで之れ等の各委員会が開かれた。

第3日。第4回本会議。新クラブの組成。地区。職業分類一会員。ロータリー情報。に付き講演指導があり其中で、職業分類一会員に就いてはロータリー情報並に拡大委員 Donard C. Harrison の講演があつた。曰く職業分類一会員の詮衡に就いては個人の感情、情実を決して交へず、只クラブ定款に従つて厳格に行へと。リンカンには“私はあの人を好かない、併しもつとよい方面に其人を知る様に努めよ”と云つた事を延いてクラブ定款、細則、職業分類の三つのものを正しく使うべきであると質疑応答の形で詳細に説明された。

ロータリー情報。クラブレベルのフォーラム。インターシティブフォーラム。等に付いてはパネル・ディスカッションの模擬実演で第3副会長 Roy D. Hickman がモデレーターとなつて示し、大に得るところがあつた。此日の午後は第5回本会議で会議の形式を変へて、会務奉仕に付いてはバズ・セッション (Buzz Session) があつた。バズ・セッションの形式は各所で漸次行はれる様になつて来たとの事であつて地区協議会並に地区大会でも此形で会議を進める事も望ましいと勧められた。バズ・セッションの会議の演り方に就いては又何かの機会にお知らせする事としたい。

第4日。第6回本会議。地区協議会及び社会奉仕。地区協議会に付いては理事 Kenneth G. Partridge の講演があつた。即ち次期の会長幹事は勿論各部門の委員長は必ず出席の要があるが、殊に次期会長・幹事は出席の責務を負うて居る。併し之等出席の必要ある人々は各々自分の仕事を有ち忙しい人達であるから其の日取り等に付いては出来るだけ早く其場所と共に決定通知して、之等の人々が必ず出席出来る様に準備をさせて置く必要があると指示があつた。至極尤もな事である。

社会奉仕に就いては理事 W. B. Todd の説明があつた。其中で青少年に関して吾々は「青少年に対して」ではなく常に「青少年と共に」の気持ちをもつて青少年に当らねばならない。青少年は各々自己の世代の独立せる思想を有つて居るが吾々は彼等の教師であると云ふ考えや態度を捨て、彼等の友人であり同僚であると云ふ心持ちを以て接する必要があると述べました。之れは誠に吾

吾が深く省みて考へなければならぬ事と思つた。

第7回本会議 (午後)。地区大会に付いてはディスクリクトガバナーと地区大会の開かれるホストクラブの会長其他大会の各委員との会合協議の模擬実演の形で行はれた。

第5日。第8回本会議。第2副会長 Ernesto Imbassaby de Mello の講演で世界は凡て隣人であると云ふ題目であつた。其中にサンスクリットの古い格言“汝の隣人に会い、彼れと話し合へ、然らばそこに平和来らん。”を延いて世界は凡てよき隣人である。此壇に並べ建てられた各国々旗は之れを証明するものである。ロータリーの精神も之れと同一である。各国のロータリアンは凡てよき隣人であるとして友好親睦のロータリーの精神を強調し世界の平和もロータリー精神の達成に各々が努めたならば自づと来らんと強く述べた。次に理事 Spencer J. Hollands は“今日の目標”なる題でロータリーは今や世界98ヶ国に跨り、クラブのある都市は9,000、会員は各様多量の職業を網羅して居る。各クラブが、各ロータリアンが通信を或は書籍等を交換し合う事は最も簡易なる親睦であり又一種の世界旅行である。之れを実行して居るクラブは多くはなつて来たがまだ之れを実行して居らぬクラブが相当ある。パンフレット No. 706 AB を読んで是非之れを実行して貰いたい。之れこそ国際友好精神の助長発揚であると述べた。(日本に於て之れを行つて居るクラブは第62区の横須賀と横浜の2クラブであります) 次に次期 R. I. 大会は瑞西ルツェルン (Luzern) で1957年5月19—23日の5日間開催される事に決定、着々其準備も進んで居ると報告。各会員も多数振つて参加されん事も希望すると述べ、其夕べは瑞西晚餐会及び瑞西の映画を鑑賞した。

第9回本会議。ロータリー財団奨学資金。委員長 Clifford E. Randall は各クラブの協力寄与も大に増加して来た。国際奉仕部門に於て為し得る最も簡単な事は此奨学資金に協力寄与する事である。100パーセント拠出したクラブは今後100パーセントロータリー財団奨学資金クラブと称し、200パーセントになれば200パーセント資金クラブ、300パーセント…と称して表彰する事に理事会で決定したから是非各クラブの協力を仰ぐと述べた。

第6日。第10回本会議。ガバナーの公式訪問が劇に仕組まれて演ぜられ、公式訪問のやり方あり方を示された。之等ewithて各部門別の本会議は終つた。各委員会は此本会議の間に2時間位25人位の小人数でフリートーキングの形で行はれ発言も活潑で質問もあり、又行つて居る実例の報告もあり、委員長から質問もあり、私も日本ではどうやつて居るか尋ねられ凡て實際的の委員会であつた。

午後は第13回最終の本会議で先づ Secretary Gerge Means、次いで会長 A. Z. Baker、次期会長 Gian Paulo Lang (ジャン パウロ ラング) の講演があつて R. I. Assembly の幕を吾々に大なる感銘と来るべき一年間に於ける向ふべき目標を深く植え付けられて閉じた。

Baker 会長講演の大要。私は最初に資源を開拓せよと提唱したが各ガバナーは私に全力を挙げて協力せられた事は私は45ヶ国を旅行して目のあたり見た次第である。即ち其結果はロータリーに参加せる国は 99、社会クラブとしては 10,000、会員は 430,000 に達せんとした。実に之れは各ガバナー努力の結果で各ガバナーに感謝する次第であるとしてガバナーの功績を讃へられ、吾々に対しては現ガバナーの理想と精神及努力を引き継ぎ之れを自分のものとしてロータリーの理想に進む様激励された。

Lang 次期会長 (現会長) は本年の指導目標として三大目標を示された。

1. ロータリーは簡潔に (Keep Rotary Simple)
2. ロータリアン はもつと ロータリーを (More Rotary in Rotarian)
3. お互はもつと知り合はう (Learn More About Each Other)

私は簡明こそ最善であると確信する。吾々動もすれば美辞を飾り、不要なる瑣事或は外面的の形式に拘泥し勝ちになるを感ずる事がある。吾々は吾々の理想に到達せんとしつつあるも中々達し得ず道は遙かである。不必要なる重荷を捨て至極悠つたりした気持ちで進むべきである。斯くして簡潔単純であれば吾々が為さんとする事も確に容易に理解せられ、喜んで受け入れられるであらう。故に私は第一にロータリーは簡潔にと提唱する。

ロータリーは創立せられて52年を経過したけれども未

だ完全にロータリーの精神を理解して居ないロータリアンが多数ある。即ちロータリアンと称し乍ら其人の目的は只ロータリーのバツヂを付けて得々として居る丈けでロータリーの真の目的を解して居らぬ。之等の人にはロータリーの真髓を打込まねばならぬ。此目的を達する為めには一時は会員の増加が鈍つても寧ろ各ロータリアンにロータリー精神を真に体得させる事を真先きにせねばならぬと思う。かるが故に第2の目標としてロータリアン はもつとロータリーを と提唱する所以である。斯く吾々は簡明簡潔でありもつとロータリーと叫ぶと同時に吾々の住む世界を爆発の危険を含む火山と比較する事が出来る。火山は一旦爆発すれば附近の草も木も土地も凡てを破壊するが、世界という火山が爆発すれば凡ての国々を破壊し、又凡ての文明を破滅する危険性を有つて居るものである。吾々がロータリーの真の目的たる友好精神を凡てに発揚するならば自づと人と人との間、国と国との間に平和が湧き立ち爆発戦争の危険も去るのである。故に吾々は広くお互にもつと知り合わねばならぬと提唱する次第で、本年の吾々の目標は此三標語を以て進みたいと重ねて述べるのであるとして其講演を結ばれた。新会長は伊太利国籍の方ではあるが英語は流暢ではあるが饒舌ではなく至極地味な健実温厚な紳士に見受けられ、吾々の年に斯る新会長を迎へたのは非常に幸福であると大に感激した。

## ○ 第47回ロータリー国際大会 (Rotary International Convention)

6月4日よりフィラデルフィアの集会堂 (Convention Hall) で開かれた。此大会の様様については及び「ロータリーの友」に委しく載せられると思ひますから之れに譲ります。之れに先立ち2日に規程審議会が開かれた。其討議は甚だ活潑熱心で殊に名誉会員に他のクラブに出席する権利を与へるとの議題は大に議論沸騰して、本会議に移されても一時間余も討議されたが遂に否決となつた。名誉会員は其クラブに対し入会金も会費も納めず只例会費丈けで例会に出席して居るのであるから当然正会員と同じ権利を与へる必要はないとの理由であつた。名誉会員の詮衡が定款に定められて居る様に嚴重に行はれ

でないクラブが各国にもある様だから 斯くも議論が激しくなったものであるが、吾が各クラブでも名誉会員の詮衡には其地位などに依らず真にロータリーに貢献せられた方を推す様にせられたい。任期は一年限りである事は申すまでもない。

大会は一万名を超えた盛会であつて 流石に広き大集会堂も階、上階下凡て参会者で埋まり、大統領 Eisenhower より祝辞が寄せられ、第3日目には大統領の代りに其顧問 Harold E. Stassen の演説があつて大に感銘を与へた。第4日目には国際友好委員会が開かれた。其中のアジア部に於てはマレーヤの Haji M. Eusoff が委員長となり吾第60区ガバナーノミニイ藤文吉君は副委員長の席に就いて挨拶をせられ参会者の感興を大に引き 吾々も肩身が広くなる思をした。

国際協議会及び国際大会を通じて大に感じた事は、日本のロータリーが大に重く見られて居る事で吾国ロータリーの発展に付き各幹部から称揚され 吾々日本人は旧会長、新会長から招かれた時には必ず上席を与へられ深く感激した次第である。併し吾日本のロータリーは最近殊にクラブ数も殖え会員も増加したが、果して其質も共に向上したかどうか、深く考へ、己れを省みる必要があると思ふ。此所に新会長ラングの本年の三標語を篤と玩味して外形よりも真に内面的にロータリーの精神を身につけ各国間、各個人間の相互理解を深め、お互の善意と友好並びに私を超えて奉仕の目的を達成せねばならぬと思う。

### ○ ポール・ハリスの遺跡訪問 (Visited The Memorial Hall of Paul P. Harris)

5月2日の日曜に伊藤君、黒川御夫妻とレーキブラントから100哩許り離れたウォーリングフォード(Wallingford, VT.)にロータリーの創始者ポール・ピー・ハリスの遺蹟を訪ねた。高原を超へ、シャムブレイン湖に沿ひ風光明媚の地方を雨のそ降る中をドライブした。小さな田舎町で住民は山に森に働く人が多く静かな、都の騒々しさと華美な所をはなれ落ちついた所である。ハリスが父の許を離れて七歳の時に此町に住んで居つた祖父母の所に引き取られて小学校に通つたので其小学校と

家が保存せられ、小学校は今此町のロータリークラブの例会場となつて居る。直に次期会長が馳せつけて来て案内して呉れたが実に素朴な会場でハリスの遺品などが飾つてあり、日本の写真帖や京都の写真帖も並べられて居り、ハリスが日本に関心を有つて居つた事も知つて感を深くした。日本人として此所を訪ねたのは吾々が始めて、吾々が余り知られて居らぬ此遺蹟を訪ねた事は非常に有意義となり、ハリスの偉大なる遺志を奉じロータリーの目的達成に一層努めねばならぬと痛感した。

### ○ ガバナー懇談会 (Meeting of District Governors)

7月1日大阪でガバナー懇談会を開いた。パストガバナー及び吾々ガバナー4人出席して、パストガバナーの高教も仰ぎ、今年度やるべき事などに付き種々協議打合せをした。年2回此懇談会を開く事とし、次回は東京で10月上旬最初の地区大会の前に開く事とした。

### ○ 米山奨学資金 (Yoneyama Fund)

米山奨学資金は主として東京クラブで行つて居られるので現在印度及其外の学生が此資金で日本に留学して其効果を挙げて居るが、他のクラブに於ても協力寄与を願ふとガバナー懇談会の席上小林パストガバナーより懇請があつた。国際奉仕の一端であるから各クラブの有志の参加を特にお願ひします。

### ○ クラブフォーラム (Forums on the Club Level)

クラブフォーラムはクラブとして最も有効適切なる会合であるから各奉仕部門に於て是非一回は開いて頂きたい。此際は会員全員出席し殊に新会員は必ず出席する事とし、座長は会長でも委員長でも其討議事項に最も堪能なる人を充てて各会員が自由に研究討議するものであります。

### ○ インターシティフォーラム (Intercity General Forums)

インターシティフォーラムは已に御承知の如く適当な数

クラブが集つてロータリーの目的等に付き研究討議する会合であります。当地区としては成るべく一県宛此フォーラムをやつて行きたいと思つて居ります。其時期に付いては各県の重だつたクラブに御相談申し上げますが御希望もありましたらガバナー迄至急御申出で願います。其リーダーは本部会長に依つて選まれるのでありますから期日、場所は可成早く決定する必要があります。

### ○ デイスツリクトの番号変更

#### (Renumbering of R. I. Districts)

来年1957年7月1日から全部のデイスツリクトの番号が変更になり吾国のデイスツリクトは第60区が第355区、第62区が第360区、第63区が第365区、第64区が第370区に変更される事になつた。此際現在のデイスツリクトで不自然或は不便な所は区域変更をする事も許されるとR. I.本部のデイスツリクト委員長からR. I. 協議会の際話がありました。

### ○ R. I. 副会長及び幹事

フィラデルフィアの大会の最後に下記の如く副会長及幹事が理事会で選出された。

第一副会長 William B. Todd

第二副会長 C. P. H. Teenstia

第三副会長 Allin W. Dakin

R. I. 幹事 (1957年度) Geoge R. Means

### ○ 新会長 Gian Paulo Lang (ジャン パウロ ラング) の写真

新会長 Gian Paulo Lang の写真 (8吋×10吋) 御希望のクラブは本部に要請されたい。無料で其クラブに贈つて呉れます。

### ○ 公式訪問 (Schedule of Official Visits)

クラブ名	月 日	会長幹事懇談会	クラブ協議会	例 会 席
桑 名	7月23日	午後 2—3時	午後 3—4時	午後 6—7時
上 野	7月24日	同 上	同 上	同 上
一 宮	7月28日	同 上	同 上	同 上

8月中の公式訪問に付いては 近く予定を定め其クラブに御都合伺ひますから宜しく願います。

### ○ 正 誤

第一信のロータリー奨学資金の項に於て、「昨年より一地区から一人宛この資金に依る留学生を選出することが出来る」と述べましたが、これは毎年4地区共に一人宛選出できるのではなく、2地区づつ隔年選出するもので文中「隔年」の2字が落ちておりましたから茲に訂正致します。

第62区1956年6月分出席率表

今月 順位	クラブ名	例会数	会員数	対期初 増 減	出席率
1	高 岡	4	34	+ 1	100.0%
2	津 島	5	26	+ 3	100.0
3	沼 津	5	46	- 1	99.6
4	藤 沢	4	25	=	99.0
5	豊 橋	4	46	+ 3	98.9
6	浜 松	4	41	- 2	98.8
7	川 崎	4	52	+10	98.1
8	多 治 見	4	25	+25	98.0
9	名古屋西	4	48	+ 4	97.9
10	横 須 賀	5	38	- 2	97.9
11	甲 府	4	39	+ 7	97.4
12	一 宮	5	35	+ 2	97.1
13	桑 名	4	36	+ 3	95.8
14	小 田 原	4	27	- 4	95.5
15	熱 海	5	25	+ 3	95.2
16	横 浜 東	5	32	+ 5	94.8
17	磯 波	4	27	+27	94.4
18	津	5	35	+ 1	94.3
19	伊 勢	4	30	- 3	94.2
20	半 田	4	30	- 1	94.2
21	名 古 屋	4	114	+ 4	94.0
22	大 垣	4	36	+ 3	93.8
23	岡 崎	4	35	=	93.6
24	松 阪	4	39	+ 5	93.6

今月 順位	クラブ名	例会数	会員数	対期初 増 減	出席率
25	四 日 市	4	52	+ 9	92.8%
.....平均出席率.....					92.48
26	富 山	4	45	+ 2	92.2
27	上 野	4	34	+ 4	91.9
28	岐 阜	5	49	+ 4	91.6
29	伊 東	4	26	+26	91.4
30	清 水	4	36	- 2	91.0
31	横 浜	4	91	+10	90.7
32	刈 谷	4	29	+ 1	90.4
33	金 沢	4	69	+11	90.2
34	吉 原	4	33	+ 9	90.2
35	美 濃	5	21	+21	88.6
36	蒲 郡	5	26	+ 3	88.5
37	七 尾	4	22	+22	86.4
38	尾 西	4	20	+20	85.0
39	静 岡	4	48	+ 3	84.4
40	松 本	4	31	+31	81.5
41	小 松	4	34	+34	80.9
42	小 魚 津	5	22	+ 2	80.0
43	高 山	5	28	+28	72.9
新ク ラブ	飯 田	—	25	+25	—
合 計		—	1,662	+356	92.48